

## 研修の記録・報告書

研修年月日	平成 30 年 5 月 26 日（土）～27 日（日）	
研修会名	第 2 回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会	
研修会場	国立京都国際会館	
受講者	忠節店 蓮田明文	
主催者	全国在宅医療医歯薬連合会	
研修目的	在宅医療における薬局薬剤師の資質向上	
研修内容		
<p>この大会は、医師による「全国在宅療養支援診療所連絡会」と歯科医による「全国在宅療養支援歯科診療所連絡会」と薬剤師による全国薬剤師・在宅大会療養支援連絡会」の3団体がそれぞれの組織の連携の必要性から「全国在宅医療医歯薬連絡会」が組織され行われた大会です。</p> <p>今回大会のテーマは、「誰もが望めば最期まで安心して家で過ごせるための多職種協働による在宅医療の質の向上、および地域連携の構築」でした。</p> <p>連合シンポジウム2の「今後の在宅医療における ICT」では、すでに17年前から運用している山形県の鶴岡地区の地域電子カルテ「Net 4 U」が多職種協働を支援するツールとして活用されているとのことでした。医療機関は、もちろんのこと訪問看護ステーション、調剤薬局、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、老人施設など多岐にわたり参加しているとのことでした。また、患者・家族も検査値や処方内容の閲覧もできるシステムも持っているということで患者・家族が医療側といつでもコミュニケーションが取れることが安心につながっているとのことでした。</p> <p>薬科シンポジウム2「シームレスな多職種連携を考える」での京都の九条病院の薬剤師からの発表では薬局薬剤師と病院薬剤師の連携に対する認識の乖離があるとのアンケート結果が示され薬局薬剤師と病院薬剤師の距離感が感じられるとのことでした。2者の共通の目標は、薬局薬剤師による病院薬剤師を介した Dr.への連携によるポリファーマシー対策であるとのことでした。</p> <p>西淀川区のおぞら薬局の発表でこの薬局は、12店舗で月に788回の在宅訪問回数ありそこでの薬薬連携の工夫や問題を示しました。この薬局では、副管理薬剤師が在宅コーディネーターを行っています。その仕事は、薬局に在宅の依頼があったとき 多職種への連絡、医療材料などの物品の手配、在宅医療の外部への勉強会、主治医への薬剤師訪問連絡、他の薬局への振り分け。患者さんにとって多職種連携は、満足度が高くこと、そして在宅と入院のシームレスには、薬薬連携が必要であると、さらにこれからは保険薬局同士の薬薬連携も必要になってくるとのことでした。京都の在宅支援診療所のじんのクリニックの Dr.からは、薬剤師の役割を示されました。1 薬剤の効果と副作用のモニタリング、2 ポリファーマシー対策、3 薬剤管理指導、4 <b>患者さんに触れる</b>、5 ジェネリックについて、6 利用者家族の精神、身体的な情報を得て行動すること。4の患者さんに触れることでより深く在宅医療にかかわれるということが言いたかったのではないかと思います。薬科シンポジウム3「医療制度の中の薬局の未来を考える」では、厚生労働省の勝山佳菜子先生から「医療制度からみた薬剤師への期待」の特別講演を聞きそのあとグループワークを行いました。グループワークでは、お互いを知らない薬剤師4人で服用状況悪化時と多院受診での薬の整理不能の場合と施設入居のそれぞれの訪問のゴール、連携対策、訪問頻度、薬剤師ならではの関与のポイントについて話し合い発表しあいました。岐阜市の北地区の病院から退院しての在宅医療は、せっかく大学病院、日赤、長良医療と3つも病院があるにも関わらずそれほど進んでいないように思う。6月の日赤病院の退院時共同指導を進める会議に出席することになったのでまずは、日赤からの在宅医療に薬剤師が深くかかわれるように努力したいと思った学会参加でした。</p>		

